

「日々の理科」(第1955号) 2019, 11, 15

「成長する虹」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

虹は夕方の東の空に出現することが多い。これには以下のような理由がある。

①虹は太陽を背にして、正面には水滴(雨粒)がある時に出現する。

②天気は西→東に変わることが多い。

③観察者のいる位置(または観察者よりも東側)が雨の場合でも、西側はすでに晴れている状況は、夕方に起きやすい。

先日の15:30頃、まさしくこのような気象条件になった。私は東の空に虹が出ると確信し、子どもたちに「もうすぐ虹が出るよ!」と「予言」しておいた。



虹が出なかったら、理科教師の名折れだったが、幸い予言どおりに虹が出現した。子どもたちは「わあーホントに虹が出た!」「先生、力あるなあ!」と大騒ぎ。下校間近だったが、窓から虹に見入っていた。



不思議な虹だった。最初、虹の弧の右下から出現。



その短い虹が少しずつ左(西)に向かって弧を伸ばしていく。子どもたちは「虹が伸びてる!」「こんなの初めて見た!」と、やや興奮気味だった。



虹は、雨粒(直径が1mm以上の降雨)に、太陽光が当たっていないと見えない。恐らく、晴れの領域が東に向かって進むに従い、虹の出現した領域に、徐々に太陽光が当たっていったのだろう。



約5分後、ついに虹が「完成」した。決して明るく見栄えのする虹ではないが、子どもたちに感動を与えたようだった。子どもたちは「すごい瞬間を見られたね」「虹ができる様子がわかった」「いいことがありそう」などと言いながら下校していった。